

授業科目名	人間の科学（人の老化と死,高齢期社会を生きる）					学期	曜 日	校時
英 語 名	Psychological Sciences(Aging and Death)							
担 当 教 官 名	中園一郎 他	単位数	2 単位	必修 選択	選 択	後期	金曜日	校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
人の老化と死について病理・細胞生物学的に解説し,尊厳死などのタナトロジー（死生学）に関する入門的講義を行う。また高齢期社会をいかに生きてゆくべきかを検討する。								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
教科書を用いず授業計画にそったプリント・資料を配付する。 参考図書など適宜紹介する。								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法					教 官 研 究 室		
全 学 部	講義時間内あるいは後に小テストやレポート提出により評価する。							
授 業 計 画								
<p>1．人の死について（担当：中園一郎、池松和哉） 人の生から死への過程を概説し,脳死および植物状態についても理解を深め,人の死とは何かを考える。また,乳幼児や成人に発症する急死例を呈示し,人における突然（急）死について考える。</p> <p>2．細胞における老化現象（担当：下川 功） 人の老化現象を細胞生物学的に理解するために,これまでに提唱されたエラー説とプログラム説に大別し,それぞれを概説する。また,脳の老化と神経細胞の老化について老人性痴呆症やアルツハイマー病等の症例を呈示する。</p> <p>3．高齢期社会を生きる（担当：森 俊介,内村公義） 「安心して死ぬる」とは,たとえ障害があろうと,独り暮らしであろうと誰に気兼ねすることなく,自分の意志で自分の死に場所が選べることである。そのような地域を実現するためには,保健,医療,福祉の連繋は当然であるが地域社会の再構築が必須である。そのキーワードとなる「人は生まれ,そして死んでいく」という人にとって絶対的なことについてタナトロジー（死生学）も含めて考える。</p>								

1. 人の死について（担当：中園一郎、池松和哉）
人の生から死への過程を概説し、脳死および植物状態についても理解を深め、人の死とは何かを考える。また、乳幼児や成人に発症する急死例を呈示し、人における突然（急）死について考える。
2. 細胞における老化現象（担当：下川 功）
人の老化現象を細胞生物学的に理解するために、これまでに提唱されたエラー説とプログラム説に大別し、それぞれを概説する。また、脳の老化と神経細胞の老化について老人性痴呆症やアルツハイマー病等の症例を呈示する。
3. 高齢期社会を生きる（担当：森 俊介、内村公義）
「安心して死ぬる」とは、たとえ障害があろうと、独り暮らしであろうと誰に気兼ねすることなく、自分の意志で自分の死に場所が選べることである。そのような地域を実現するためには、保健、医療、福祉の連繋は当然であるが地域社会の再構築が必須である。そのキーワードとなる「人は生まれ、そして死んでいく」という人にとって絶対的なことについてタナトロジー（死生学）も含めて考える。